2023年度「チャイルドラインなら」活動報告

チャイルドラインは、「子どもの権利条約」の理念に基づき、18歳までの子どもの「悩み」や「声」を、毎日午後4時から午後9時まで全国の68団体が聴いているボランティア活動です。「チャイルドラインなら」はそのうち、毎週木曜日午後5時から午後7時30分までと毎週日曜日午後4時から午後6時30分までを担当しています。また、「チャイルドラインなら」では電話を聴く「受け手」に子どもたちの目線に近い大学生にも担ってもらっています。

１、電話を受ける私たちの姿勢

子どもたちは自分で考え、自分で決定し、自分で行動できる存在と考えています。ですから私たちは相談に対して指示や説教は行わず、「子どもが話し出すのを待つ」、「評価せずに聴く」、「理解する」、「共に考える」、「子どもの自己決定を待つ」というスタンスで子どもたちの気持ちに寄り添いながら対応しています。

２、受信件数と受信内容

(1) 「チャイルドラインなら」が2023年度1年間に受けた総受信件数は3,786件(前年度2,935件)で、そのうち会話が成立したのは714件(前年度627件)でした。いずれの件数も増加しているのは、本法人の体制が整いつつあるためだと思っています。ただ、会話不成立が371件、無言が2,653件あり、会話ができなかった割合が総受信件数の約80%を占めています。これは子どもたちが、電話をかけてみたものの話し出すのを躊躇している可能性、「受け手」の性別や年齢を選択している可能性があるのではないかと考えています。

(2) 成立した会話の内容は、心の状態や恋愛、進路など「自分に関すること」が250件で35.4％と最も多く、次に性行動や自慰、性器など「性に関すること」が173件で24.3%、学校での人間関係やいじめ、不登校など「学校に関すること」が163件で22.9%、家庭での人間関係や虐待、両親不仲など「家庭に関すること」が84件で11.8%と続いています。少数ではあるものの、オーバードーズ(OD)のほかリストカットなどの自傷行為、性的マイノリティ、虐待による自死念慮など深刻な内容もありました。

３、具体的な子どもたちの声

以下は、プライバシーに配慮したうえで内容を編集した子どもたちの声の事例です。

(1) 自分に関すること

・自分は発達障害です。どうすればトラブルは少なくなりますか。(高校男子)

・虐待を受けて施設にいます。将来困っている人を助けたいので、法律関係へ進みたいです。(高校男子)
・施設育ちです。いじめで自傷しました。海へ行って死んでしまいたい。話を聴いてくれる人はいません。(中学女子)
・今日、学校を休みました。私抜きで友達が楽しそうに下校する姿を見て、自分は不必要なのかなと思います。(小学女子)
・入院先で障害者に出会いました。一人ぼっちに見えました。将来彼らを助ける仕事に就きたいです。(高校男子)
・統合失調症です。平日は先生にハグしてもらえるけど、日曜日は誰もいなくて困ります。(高校男子)

(2)　性に関すること
・援助交際を続けています。やめたいのですがやめられません。そして、どうして死にたい気持ちが消えないのでしょうか（10 代女子）
・同じ性別の女子が気になります。私って変ですか（小学女子）
・避妊の仕方を教えてください。ネットで売っているピルは効果がありますか。（高校女子）
・友人の母のことが好きになりました。その人と時々２人で会っています。(高校男子)
・女性の裸が目に浮かび、他のことが手につきません。(中学男子)
・エッチな本を万引きしたことをきっかけに、母が自分の裸を見せに来るようになりました。(中学男子)
・妊娠しています。お腹が大きくなってきました。母を亡くして寂しくなって彼に許しました。どうしたらいいんでしょう。(中学女子)
・ホストに夢中でお金が足りません。ホストに「もっと稼げ」と言われたらいやだなあ。(１０代女子)

(3) 学校に関すること
・友達と一緒にいたいけど気を使って疲れます。先生を含めて人間関係を築けないので不登校しています。(小学女子)
・イジメなどが原因ではなく不登校になりました。学校は心が疲れます。フリースクールに通っていますが将来が不安です。(中学女子)
・不登校で気持ちがしんどいです。家では兄は大切にされていますが私は期待されていません。チャイルドラインみたいに認めてくれたら学校に行くかも知れません。(中学女子)
・明日月曜日、学校に行きたくありません。いやなことばかりです。でも留年したら親に迷惑かけるし、死んだ方がましです。(高校女子)
・学校はブラックだから行きたくないけど、行かないといけないから困っていま

す。（中学男子）

（4）家庭に関すること

・ヤングケアラー10 年目です。私は弟の面倒をみながら余生を送ることになりそうです。今後、私は幸福になれますか（高校女子）
・母から父との離婚の件で相談をされるのがつらくてストレスになっています。（高校女子）
・父は思い通りにならないと暴力をふるいます。３姉妹と母と間もなく家を出ます。（高校女子）
・自分は発達障害です。親は高学歴で自分を否定します。生きている価値が感じられません。（小学女子）
・何をしても母に叱られます。「お前は感情を持つな。」と言われてきました。もう諦めました。（中学男子）
・何があったわけでないけれど元気が出ません。母には叱られるばかりです。担任の先生を通して思いを母に伝えたら「家庭の事を学校に言うな。」と叱られました。なんだかモヤモヤします。（中学女子）

４、子どもたちの声から見えること

子どもたちが電話をかけてくるのは、話を聴いてくれる大人が周囲にいないからかも知れません。子どもは理解されているという安心感があれば自分の考えを持ち、自分から行動を始めます。私たちが「聴く」に重点を置くのはそのためです。

子どもの個性や周囲の状況はそれぞれ異なり、成長の速度も異なります。「こうあるべきだ」という大人の思いではなく、子どもの話を聴き、子どもと同じ目線に立って一緒に考えようという姿勢が、子どもとより良い関係を築けるものと考えています。

５、電話の「受け手」について

毎年、県内の各大学やインターネットを通じて、私たちのボランティア活動に参加してくれる人を募集しています。2023 年度は大学生 11 名、社会人 3 名の応募があり、その応募者を対象に養成講座を 3 月に 5 日間開講し、全員が「受け手」として認定されました。その結果、前年度から継続して活動している大学生 6 名を含め「受け手」は 20 名になり、「受け手」をサポートする「支え手」には教員や教員 OB のほか電話相談員経験者など 7 名が活動しています。

「受け手」の大学生は子どもに近い目線で話を聴き、社会人は豊かな経験を基に子どもの話を聴いていますが、特に大学生は「チャイルドラインなら」の心強いメンバーであり、大学卒業後も職業人として、またボランティアとして子どもの側に居続けてくれることを願っています。

６、今後の課題

(1) 奈良県の子どものチャイルドラインへの発信件数は、近隣府県に比べ極端に少ないのが現状です。その状況を改善するため、2024 年度も県内の全小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の全児童、生徒に加え、新たにフリースクールにも電話番号などを記載した「ミニカード」を夏休み前に配布します。今後も、この「ミニカード」の配布やポスターの掲示、各報道機関への記事依頼のほか、SNS を利用した広報活動に努めます。

(2) 最近の子どもたちには日頃使わない電話に対するハードルが高いことから、スマホなど使い慣れた文字によるコミュニケーションツールの一つであるチャット相談の実施も目指します。

(3) 厳しい収支状況を改善するため、会員を増やすとともに、民間団体などからの助成金の獲得に努めます。

(4) 電話を受ける「受け手」の数は少しずつ増加していますが、「支え手」の人数は増加していないことから「支え手」の確保も緊急の課題です。